

(シラバス)

科目名	公共哲学特論	担当教員	山脇 直司
科目属性	専門科目群 E	単位数	2単位(面接:0.5単位)
<b>【授業概要】</b> アメリカのマイケル・サンデルの影響などで日本でも知られるようになった公共哲学とは、「善き公正な社会を追求しつつ、現下で起こっている切実な公共的諸問題を市民と共に追求する実践的学問」と定義できる。授業では、このような意味での公共哲学を、共生社会実現のための学問として位置付けつつ、主に教育とメディア・ジャーナリズムの分野での実践的学問として展開したい。			
<b>【授業の到達目標】</b> 1. 英語のパブリックの意味や、日本語の公共の概念を明確に理解する。 2. 教育とメディア・ジャーナリズムにおける公共哲学の重要性を理解する。 3. 民主主義的世論形成のために何を考え、何を実践するべきかを考える。 4. メディア社会の中で、善き公正な共生社会実現のために何ができるかを討論する。			
<b>【授業計画】</b> 第1回: 公共哲学は何を目指すか 第2回: 公共哲学の人間観と教育観 第3回: 同上 第4回: 公共という概念の歴史 第5回: 同上 第6回: 世論と公衆についてのリップマンの見解 第7回: 同上 第8回: 教育と民主主義と公衆に関するデューイの見解 第9回: 同上 第10回: 同上 第11回: リップマンとデューイの現代的意味 第12回: リップマンとデューイの双方を生かしつつ、乗り越えるための課題 第13回: 同上 第14回: 善き公正な共生社会の実現のため、教育とメディアを通じて何を考え、何を行うべきかについての討論 第15回: 同上			
<b>【評価方法】</b> 「スクーリング評価」(20%)、「授業後に出すレポート評価」(30%)、「科目修得試験」(50%)の割合で総合して評価する。			
<b>【教科書】</b> 山脇直司『公共哲学とは何か』(ちくま新書 2004)、『公共哲学からの応答——3.11 の衝撃の後で』(筑摩書房 2011)「公共をめぐる思考の現在——市民社会と公共圏の構造変化」『放送メディア研究5』(日本放送協会放送文化研究所 2007)、リップマン『世論 上下』(岩波文庫 1987)、『幻の公衆』(柏書房 2007)、デューイ『学校と社会』(岩波文庫 1957)、『公衆とその諸問題』(ちくま学芸文庫 2014)			
<b>【参考図書】</b> 山脇直司『社会とどうかかわるか』(岩波ジュニア新書、2008)、『グローバル公共哲学』(東京大学出版会 2008)、Walter Lippmann, <i>The Public Philosophy</i> (Routledge 1989)			